

ことばのテーブル 100枚プリント

解説

第18集 俳句をよもう

ことばのテーブル100枚プリント第18集「俳句をよもう」をお買い上げいただき、ありがとうございました。
この教材は、俳句の鑑賞と創作を目的とした教材です。俳句という表現活動を通して、「作品」という概念や、日本語の音感、ことばの想起能力などを育てます。



【教材の構成と使い方】※「課題Ⅰ・Ⅱの使い方」「Ⅲ.俳句をよもう：組み立てと使い方」及び「リスト1・2」参照のこと。

◎課題は、Ⅰ.俳句のことばを考えよう(15題) Ⅱ.ことばを結んで俳句を作ろう(5題) Ⅲ.俳句をよもう(80テキスト)で構成されています。

*Ⅰ～Ⅱは、俳句作りの準備段階の課題です。Ⅲ.俳句をよもうで、俳句の鑑賞と創作を行います。

●Ⅰ.俳句のことばを考えようは、俳句の虫食いになっている部分(下五・中七・上五)に、ことばを入れます。

課題は、語句が想起しやすいと思われる「下五」から、「中七」「上五」の順に配置されています。

●Ⅱ.ことばを結んで俳句を作ろうは、上・中・下の句を連結して、意味が通る俳句を作ります。

各句は、意味的に連結が容易と思われる語句で構成されています。

●Ⅲ.俳句をよもうは、①古今の名句を読み、句を仮名で筆写します。

②テーマのことばを使って、俳句を詠みます。

テキストは、春夏秋冬の順に、各季節の俳句20句を、鑑賞句としてあげています。

※作句のテーマ(ことば)は、必ずしも、季節とは関係がありません。



菜の花や
月は東に
日は西に
与謝蕪村

【対象】この教材の使用にあたっては、学習者に以下の能力が必要です。

①文字能力に関して：簡単な短文の音読・読解能力が必要です。また、特殊表記も含めた、ひらがなの書字能力が必要です。

②音韻意識に関して：5・7・5音で俳句を作るためには、一定の拍(モーラ)認識が必要です。少なくとも、平拍(ひらく*清音・濁音を1拍と捉える)の認識が要ると思われます。ただし、俳句作りを通して、特殊拍(拗音・促音・撥音)を含めた拍認識を育てることが、この教材の目的でもあります。

③語彙に関して：俳句作りのために、一定の連想能力が必要です。しかし、その育成も目的としています。

④文法能力について：5・7・5音にことばを収めるには、一定の文法能力が必要です。とくに、助詞・助動詞の知識や、動詞・形容詞等の活用能力が求められますが、その育成も目的としています。

【この教材の目的】

① 表現(創作)活動への参加

*心の中にあるものをことばで表現する活動を通して、自分や他者の「心への気づき」を促します。

② 語彙のネットワーク化の促進

*俳句という短詩の創作活動を通して、ことばの連想能力や想起能力、イメージ能力を育てます。

③ 日本語の音韻意識の育成

*5・7・5という定型規則を通して、拍を中心とした日本語の音韻意識を高めます。



「ね」を
つけちゃえ

おいしい
ね

☆より詳しい資料として、葛西ことばのテーブルHP内の学習会資料(第13回「キーワードから考えることばの学習～俳句を考えるI～」)を、ご参照いただければと思います。

☆ことばのテーブル100枚プリントについて

ことばのテーブルでの指導の中で、企画・制作された教材集です。ことばのテーブルでは、この教材集を指導室での学習や家庭で行うホームワーク教材として使用しています。

※教材集の複製・販売は、ご遠慮ください。

葛西ことばのテーブルは、発達障害や言語障害の方のための学習室です。

《企画・製作 言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル》

●制作責任 三好純太 制作スタッフ: 島本佐保 協力: 三好亨

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-1-3 第6山秀ビル301

TEL/FAX (03)3687-3158 E-mail: QYT07571@nifty.ne.jp